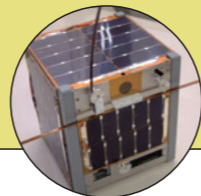


日時 2019.3.18 (mon) 全日 — 19 (tue) 午前

場所 東京大学工学部2号館213号室



主催：東京大学国際オープンイノベーション機構
 後援：内閣府宇宙開発戦略推進事務局／経済産業省
 東京大学宇宙惑星科学機構／神戸大学惑星科学研究センター／
 NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC-Japan) ／ UNISEC-Global
 協賛：日本航空宇宙学会

画像提供：JAXA

ごあいさつ

超小型衛星の技術とともにその利用・活用は急速な発展を遂げており、欧米では宇宙機関を中心として政府資金の投資により推進プログラムが整備されつつあり、そこで力をつけた民間企業や大学がさらに民間のリスクマネーを取り入れ、ビジネス展開や政府へのサービス提供を図るというエコシステムが構築されつつあります。一方、世界で初めての1kg衛星を打ち上げた日本では、大学やベンチャーが科研費的な競争的資金や民間のファンドを利用した活動を行っているものの、政府による継続的かつ戦略的な投資がほとんどなく、このままでは彼我の差は開くばかりであります。この問題を解決するためには、日本でも超小型衛星の技術サイドと利用サイドの強いコミュニティを作り、その連携により、優れたミッションが超小型衛星でも可能であることを政府はじめ関連機関に示していくことが必須であると考えています。

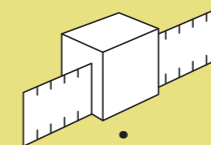
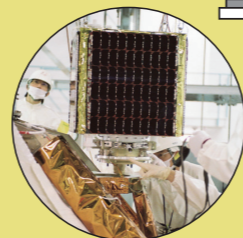
本シンポジウムでは、欧米で超小型衛星が有効に利用されつつある宇宙科学・探査、地球観測分野における超小型衛星(探査機含む)ミッションの可能性を探ることを目的とします。超小型衛星の技術サイドからはどんな機能を提供できるかを、利用コミュニティからは超小型衛星を活用したミッションのアイデアを紹介してもらい、それを受けてどんなミッションが効果的に実現できるかの検討を行うとともに、今後それを進めるにはどのような戦略をとればよいかを議論したいと考えています。また、そこにはICT(AIデータ処理など含む)や通信のような基幹となるインフラも必要であり、その戦術を立てることも重要でしょう。

超小型衛星・探査機の技術サイドと宇宙科学・探査、地球観測分野の多くの方に参加いただき、特にミッション案を持っておられる方にはその紹介をお願いしたいと考えています。日本における超小型衛星・探査機分野の強固な技術・利用コミュニティを作っていく大きなステップになることを期待しています。

シンポジウム委員長 中須賀真一(東京大学)



Micro/nano/ pico-satellite Utilization Symposium



超小型衛星利用シンポジウム

